

お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ



子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリ

令和7年 7月 No. 368

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～			7月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
7月	4日 11日 25日	金	ヨーガを楽しむ会 14:30～16:00	高齢の初めての方も参加しています。 できる範囲で体を動かしてみましょう。
7月	8日 15日	火	体験保育 15:00～16:00	部屋での運動あそびをしてみませんか？
7月	12日	土	子育てに役立つ小物づくり 14:00～16:00	卵や風船など ① から ② に変身する パタパタシアターを作ります。
7月	18日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	ふろしき利用法 ② をふろしき研究家の 伊藤梨永 ^{りえ} こ氏より学びます。
7月	22日	火	自然の中の遊び体験 15:30～16:30	身近かな生き物のくらしや知恵を 虫さがしで学びましょう。
・月～金の12:00～17:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、土・日曜・祭日は休み)			育児相談（月～金）12:00～17:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。	

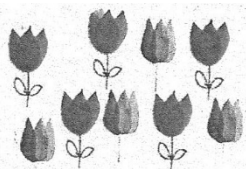


金子みすゞ 童話全集②
「空のかあさま・上」より

麦のくろんぼ
金の穂波をかきわけて。
麦のくろんぼぬきましよう、
ほかのくろんぼにうづるからや、
麦のくろんぼにうづるからや、
小径のくろんぼにうづるからや、
せめてなけむりは空たかく。

麦のくろんぼ





それって保育の常識ですか？

— ほんとうに大切なこと —

柴田 愛子

柴田 愛子（しばた あいこ）プロフィール

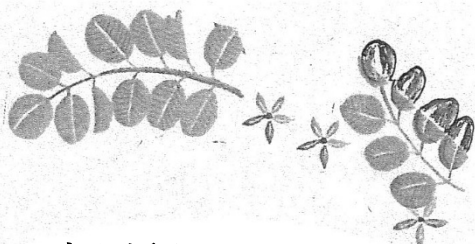
『りんごの木』代表、保育者。

東京の私立幼稚園で10年保育をした後、『りんごの木』を発足。現在は、「子どもの心に寄り添う」を基本姿勢として『りんごの木』の代表を務めるかたわら、子どもからもらったドラマを、保育者や保護者向けの講演や執筆、絵本というかたちで伝えている。

『りんごの木』とは？

1982年、3人の元保育者で「子どもに関わるトータルな活動」をめざして創設。現在は、2歳から就学前の幼児保育のほか、造形、音楽、あそびなどの各教室を開設する「りんごの木子どもクラブ」をはじめ、保育雑誌への寄稿やセミナーなどを主催する「ワークショップ」、書籍やCDの発行と販売をする「出版部」の3つの分野で活動中。

○乱暴な子



「困った子」には気持ちに寄り添うこと それしか手立てが思いつきません
まったく困ってしまいます。手が出る子。

3歳児。すぐに相手の顔をねらい、ひっかいたり、たたいたりしてしまう。それも、相手の子が静かな女の子だったりして、親も巻き込んで大騒動になってしまうことも。人の物を取る、人に襲いかかる、物を投げる…。保育者に対しても背中から飛びつく、おしりをたたくなど、ともかく乱暴者。

だからといって隔離するわけにもいかないじゃないですか。おまけに、手が出るのが素早くて、止める時間ありません。

どうして、乱暴してしまうのでしょうか？本人が好んでやっているのでしょうか？親の愛情が足りないのでしょうか？親がたたいているのでしょうか？

どうもそんなことではない気がします。

よくよくつき合ってみると、変でもないし、案外優しくかったりもします。ど

うも、その子はそういうふうにしか自分を表現できないのかも。無自覚に乱暴になっちゃうようです。

ともかく「困った子」をどうするかは、その子を受け止めるより仕方ありません。それには、まず、近づくことです。その子の気持ちに寄り添ってみること以外に手立てを思いつきません。



「わかってくれる」と気づくと荒れなくなったのです

けんちゃんがミニカーを持っている子に近づきました。

あ！顔をひっかきそう！慌てて抱きしめます。「ミニカー、使いたいね」（想像でしかありませんが）と共感してから、けんちゃんに代わって「これ貸してくれる？」と相手に伝えます。「だめ！」と相手に言われたら「残念だったね。こっちのミニカーでがまんしようか」と遊びに誘います。

紙で何か作っている子に近づいて行ったら、取り上げてぐちゃぐちゃに！泣いている相手の子には「悲しいよね。せっかく作っていたのにね。ごめんね」と伝えておいて、けんちゃんには「ぼくもこんなの作りたかったよね。いっしょに作ろうか。」

やった行為自体は謝るべきことですが、けんちゃんは、自分がやりたいという気持ちでいっぱい。相手に謝るなんて気持ちはまったく芽吹いていませんから、今のところ強引に「ごめんなさい」と言わせても本人の心には響かないでしょう。

こんなことを繰り返していくうちに、私はわかってくれると思ったのでしよう。次は、私に言いつけに来るようになりました。「あれ！あれ！」って、自分がやりたいことをやっている子やほしい物を持っている子を指さします。手下のように「そうか、あれやりたいね。じゃあ、いっしょに行ってみよう」と手をつないで赴き、「貸してくれる？」と私が聞きます。すると今度は「だめ」と言われて「だめだって、残念だったね」と言っても、荒れなくなったのです。



トラブルメーカーを「ダメな子」と決めつけないように、仕事魂に火をつけて！

この繰り返しの後、自分で「かして」と言うようになりました。精神的に成長したこともあるでしょうけれど、わかってくれる人がいること、そして、見本を示してくれる人がいることで、彼は自分の気持ちの表現法を学んでくれたように思います。相変わらず、あいさつ代わりに私のおしりをたたいてきますが、要求を暴力によって表現することはなくなってきました。

そして、乱暴者と思っていたけんちゃんは、案外几帳面で折り紙が好きだったり、お弁当のナフキンをきちんと畳んだりする子どもでした。

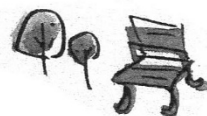
性格とは関係なく、単に表現方法が未熟だったということなのでしょう。

いずれにしても、こういうトラブルメーカーの子を「ダメな子」「きらい！あの子さえいなかったら」と思わないで、自分の仕事魂に火をつけましょう。

いやー、保育って大変です。でも、子どもが変わっていく様を見ると、うれしくてやめられない仕事でもあります。



乱暴な子は“悪い子”ではありません！



◎苦手意識を持つてはいけないと思いながらもどうしてもウマが合わない子がいます…

①保育のプロなので、選り好みしてはいけません

ウマが合うとか、合わないとか、口にしてはいけないことだと思います。だって、私たちは保育のプロなのです。選り好みしていい立場ではありません。

すべての子どもに守られている安心感を届けるのが基本です。子どもにとっては、園で頼れる大人は担任しかいません。先生に疎まれていると感じたり、わかってもらえないさみしさを感じたりしたら、子どもはどうすればいいのでしょうか。苦手で、わかりづらい子がいたら、近寄ってよく見てください。抱いてみてください。きっと、その子の真の心が見えてきます。